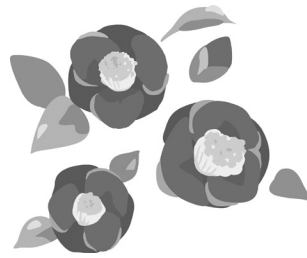


横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

＜知能レベル＞					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
簡単な計算可					
D6	D5	D4	D3	D2	D1
簡単な文字・数字の理解可					
C6	C5	C4	C3	C2	C1
簡単な色・数の理解可					
B6	B5	B4	B3	B2	B1
簡単な言語理解可					
A6	A5	A4	A3	A2	A1
言語理解不可					
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可
＜移動機能レベル＞					
＜特記事項＞					
C:有意な眼瞼運動なし					
B:盲					
D:難聴					
U:両上肢機能全廃					
TLS:完全閉じ込め状態					



中心になりそうです。こうした二グループの存在を意識して施設生活設計をしていかなければならないと考えています。

うららの

日常生活紹介

鈴木久美子

うららは入所者17名(横地分類A3が3名、A4が6名、A5が2名、A6が1名、B4が2名、B5が2名、C4が1名)が生活しているゾーンです。
Aさん(横地分類A3)は職員がそばへ行き「Aさん」と名前を呼びかけると笑顔がみられます。また耳元で聞こえる声のみでなく、少し離れた所

日常生活では豆の音やギターの音などを聞いたり変化を楽しむ活動をしています。ギターを弾きながら「ポロン」と何弦か鳴らすと音に気付いたように目元がゆるみ一気に笑顔になります。その後一弦一弦音を出すと、それまで布を持ち勢いよく振りながら動かしていた手の動きを止め、視線は空を見上げるようにして音に耳を澄ませます。一弦ずつ鳴らしていくと最後の「ポロン」という音の余韻がなくなるまで、じっと聞いています。豆の音では箱の中に豆を入れて傾け音を出すことを繰り返すと、音がしていない間も腕の動きを止め職員の方を振り向いています。次に豆



から聞こえるAさんをお呼びする声や木琴などの楽器の音に対しても耳を澄ましてじっと聞いている様子があります。

の音がすることを期待している様子があります。「ザー・ザー」と左右にゆっくり傾けていた箱を「ザザツ」と速く動かし音の鳴り方が変わると表情がゆるみ変化を楽しんでいました。

Bさん(横地分類A4)は耳元で紙を破く小さな音や、ささやくように歌う声にも耳を傾けよく聞いています。またリビング内を動く職員の動きなど周りの様子などもよく見えています。日常生活では板の上を箱が動いたり止まったりしながらゆっくりと滑る動きを楽しむ活動をしています。板を職員が持つていくと、次に始めることを期待しているように、目を細め口元がゆるみます。職員が板に箱を乗せ「いきますよ」と声をかけると表情をゆるませたまま視線を箱に向けます。板を傾けて箱がゆっくり動きたし「ス」つと小さな音がすると、その音にも耳を澄ませています。途中で滑っていく動きを止める時、そのまま視線を箱に向け続け、次に動き出すことを待つていくようでした。動きを止めている間に職員の方を見て目を細めて微笑み、動きだすと再び箱に視線を向けていました。箱が板の端までいき「コトツ」と小さな音とも

こだまの

日常生活紹介

鈴木 智子

こだまは、入所者16名(横地分類A1が11名、A2が1名、B1が3名、E1が1名)が生活しているゾーンです。

Aさん(横地分類E1-B)は、職員間で交わされる何気ない会話をよく聞いています。話が愉快なものであると、そのおかしさやオチを感じ、笑っていることがあります。その場にある、楽しげな雰囲気も感じていきます。

普段の生活の中でも、愉快的な話を楽しく聞いています。Aさんは、さくらもこのエッセイ集が好きようです。さくらもこのエッセイ集は、日常生活で起こるような面白い出来事が描かれています。例えば、水虫を治す為四苦八苦する主人公の様子や、家族同士のほのぼのとする会話などです。状況がイメージしやすいものが多く、オチを想像しながら聞いている様子があります。作者が近所のおじいさんが亡くなったと勘違いし、そのことを他の人に伝えてし

に落ちると「ハハッ」と笑いしました。ゆっくりとした動きと音を楽しんでいました。